

12：健常者におけるカプサイシン咳感受性と ACE 遺伝子多型

上田哲也 新実彰男 松本久子 竹村昌也 山口将史 松岡弘典 三嶋理晃(京都大学呼吸器内科)、水口正義(天理よろづ相談所病院呼吸器内科)、白川太郎(京都大学医学研究科健康増進行動学分野)

【目的】健常者の咳感受性には個人差が大きいとその決定因子はよく知られていない。一方アンギオテンシン変換酵素 (ACE) と咳嗽との関連が注目されている。今回血清 ACE 値を規定することが知られる ACE 遺伝子多型とカプサイシン咳感受性、誘発喀痰中 substance P (SP)、bradykinin (BK) 濃度との関連を若年健常男性で検討した。

【対象と方法】112 例 (平均 23.6 歳) を対象とした。末梢血より DNA を抽出し PCR-RFLP 法により ACE の多型 insertion (I) /deletion (D) を調べた。咳感受性は C2 を指標とした。SP、BK 濃度は ELISA 法で、また血清 ACE 値を比色法で測定した。

【結果】多型頻度は II 群 43 例、ID 群 48 例、DD 群 22 例であった。血清 ACE 濃度は II < ID < DD の順に低く、咳閾値 C2 は DD 群で有意に高値であった。しかし ACE 多型、血清 ACE 値、咳閾値 C2 と喀痰中 SP、BK 濃度との間に関連は認めなかった。

【考察】ACE I/D 多型が健常者の咳感受性を規定する可能性が示唆された。